

平成 29 年度事業報告

公益財団法人安達峰一郎記念財団

1. 全般の概況

平成 29 年度のわが国経済は、各種経済政策の推進により、緩やかな回復を見せた。雇用、所得環境の改善、輸出や生産の持ち直しとともに、経済の好循環が実現した。こうした中、当法人は、安達峰一郎の顕彰、安達が生涯を捧げた国際親善と世界平和に寄与する人材の育成、国際社会の親善向上発展を目的とする事業を展開し、概ね所期の目的を達成することができた。

加えて、「周年事業準備委員会」により安達峰一郎生誕 150 年記念行事の立案、「基本財産の運用等検討委員会」において当面の収支改善対策を検討した。

2. 事業展開

(1) 奨学諸制度

① 安達峰一郎記念賞（第 50 回）

- ・選考委員会

[平成 29 年 9 月 12 日 12 : 00～14 : 00 ホテルグランドパレス芙蓉の間]

平成 29 年度の安達峰一郎記念賞については下記の受賞者に対し、2 名からの推薦があり、選考の結果、受賞者を決定した。

国際司法裁判所法務官補 中島 啓氏

研究業績 『国際裁判の証拠法論』 平成 28 年 信山社

- ・贈賞式

[平成 29 年 10 月 31 日 12 : 00～14 : 30 ホテルグランドパレス芙蓉の間]

安達峰一郎記念賞賞状と記念メダル(銀製)並びに副賞 60 万円を授与した。

②安達峰一郎国際法奨学生（第 53 回）

- ・選考委員会

[平成 29 年 4 月 21 日 12 : 00～14 : 00 ホテルグランドパレス芙蓉の間]

平成 29 年度は、国際法奨学生候補者として 5 名の推薦があり、選考の結果、次の 3 名が選定された。奨学生には平成 29 年 4 月から 30 年 3 月までの 1 年間、月額 4 万円の給付型奨学金を支給した。

氏 名	所 属	研 究 テ ー マ
望月洋佑	東京大学大学院 法学政治学研究科修士課程 2 年	裁判条項に基づく国際裁判手続における 原告適格

氏 名	所 属	研 究 テ ー マ
後藤倫子	同志社大学大学院 法学研究科博士後期課程 3 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェノサイド条約の成立意義および現在の規定内容に至った過程と背景の検討 ・国際司法裁判所判例におけるジェノサイド条約の解釈の分析 ・国際司法裁判所が国際法規範に与える影響の考察
大下 隼	早稲田大学大学院 法学研究科博士後期課程 1 年	<ul style="list-style-type: none"> ・軍縮・不拡散法における一体的義務の特質 ・NPT体制の実効性 ・NPT体制の予防的措置と損害最小化措置の特質 ・安保理決議 1540 の履行確保制度 ・一体的義務の歴史的発展過程

・奨学生の研究報告会

〔平成 30 年 2 月 16 日 12:00～14:30 ホテルグランドパレス芙蓉の間〕

奨学生 3 名により研究成果の発表が行われ、松井芳郎、奥脇直也、柳原正治、薬師寺公夫の各顧問より懇切な講評、指導がなされた。

③安達峰一郎奨学賞（第 39 回）

山形県山辺町(安達峰一郎の出身地)の中学校卒業生徒のうち、もっとも学業成績が顕著で、心身ともに健康な者に「安達峰一郎奨学賞」（賞状、銅製メダル）を贈呈した。

受賞者 渡邊^{よしのぶ}孝恒（山辺町立山辺中学校 3 年）

(2) 国際平和と国連思想の普及に関する事業

日本国際連合協会主催の下記事業に協賛し、当法人からそれぞれ優秀賞を贈った。

- ・第 56 回「国際理解・国際協力のための全国中学生作文コンテスト」（応募総数 1,736 点）

優秀賞 「世界の平和のために、異なる文化への理解が果たせる役割
—二つの国に生まれて—」

松澤研二 （豊中市立第八中学校 1 年）

安達峰一郎記念財団賞賞状と記念の楯を授与した。

- ・第 64 回「国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール」（応募総数 341 名）平成 29 年 10 月 23 日(月) （於 国連大学）

優秀賞 『より人権が守られる世界の実現のために、国連は何をすべきか
—与えられる人権に目を向けて—』

城間 亮太（沖縄県立開邦高等学校 2年）

安達峰一郎記念財団賞状と記念の楯を授与した。「世界の良心 安達峰一郎博士」「安達峰一郎 人と業績」書籍 2冊もあわせて贈呈した。

(3) 安達峰一郎の業績の普及浸透

- ・安達峰一郎の遺品、記念品等の展示による業績の普及に努めた。
- ・周年事業準備委員会

平成 31 年安達峰一郎生誕 150 年を迎えるに当たり、平成 29 年 4 月 11 日の第 1 回を皮切りに、これまでに 6 回の周年事業準備委員会を開催し、以下のような周年事業の骨子が概ね固まった。

- ① 「安達峰一郎著作選」の刊行：平成 31 年 6 月 19 日以前
- ② シンポジウムの開催：平成 31 年 6 月 8 日開催予定
- ③ 美術展開催：平成 31 年 12 月～32 年 1 月（於）山形美術館

平成 30 年度に具体的な実施の詳細を決定し、平成 31 年度のスムーズな事業展開へ繋げていくことが決まった。

3. 関係機関との協力

- ・（一社）日本外交協会、（公財）日本国際連合協会、（一社）国際法学会等の関係機関との連携を継続した。
- ・従来同様、（一社）国際法協会日本支部ならびに東京大学国際法研究会に対し研究助成を行った。

4. 事業資金の調達

当法人の資金調達は、従来どおり長期国債を中心に、有価証券を加えて資産運用に努めた。資産別の資金調達は次のとおりで、平成 29 年度の普通預金利息を含めた調達金合計は 16,247,821 円であった。

(1) 利付国債

国債の運用益として、年間 12,066,000 円の利息の支払いを受けた。

(2) 投資有価証券

① 株式

中部電力の株式は、1 株 30 円、1,230,000 円の配当があった。

なお、東京電力の株式は無配であった。

② 投資信託

「短期豪ドル債オープン」の元本払戻金は年間 2,794,924 円であった。

(3) 普通預金利息を含む雑収益

156,897 円の支払いを受けた。

平成 30 年度の早い時期に資金ショートが起こることが確実となったため、「基本財産等運用検討委員会」を立ち上げ、今後の事業資金の調達について検討、立案し、その進言を基に健全な財団運営を図ることとなった。

5. 平成 29 年度事業日程

平成 29 年

- 4 月 11 日 第 1 回周年事業準備委員会開催
- 4 月 21 日 国際法奨学生選考委員会開催
- 4 月 28 日 日本外交協会例会出席
- 5 月 1 日 安達峰一郎記念賞候補募集
- 5 月 2 日 監査
- 5 月 12 日 理事会（平成 28 年度事業報告および決算）開催
第 2 回周年事業準備委員会開催
- 5 月 19 日 国際法研究助成金交付
（一社）国際法協会日本支部ならびに東京大学国際法研究会
- 6 月 5 日 定時評議員会（平成 28 年度事業報告および決算）理事会開催
（評議員・役員選任、理事長・常務理事選定）
- 6 月 19 日 日本外交協会例会出席
- 6 月 23 日 第 3 回周年事業準備委員会開催
- 6 月 30 日 内閣府へ平成 28 年度事業報告等提出
安達峰一郎記念賞募集締切
- 7 月 12 日 日本外交協会例会出席
- 7 月 25 日 HP 更新
- 8 月 15 日 見学者 4 名来訪
HP m-adachi.or.jp に移動
- 8 月 26 日 （公財）日本国際連合協会主催「集いの夕べ」出席
- 8 月 28 日 登記完了（評議員・役員選任）
- 9 月 1 日 「世界の良心 安達峰一郎を語る」講演会向け取材に鈴木勝氏来訪
- 9 月 5 日 内閣府公益認定等委員会にて懇談
- 9 月 8 日 日本外交協会例会出席
- 9 月 12 日 安達峰一郎記念賞選考委員会開催（受賞者 1 名を選出）
第 4 回周年事業準備委員会開催
- 9 月 29 日 内閣府に修正申請提出
- 10 月 23 日 日本国連協会「高校生の主張コンクール」出席
国際学士院連合総会学術講演聴講
- 10 月 24 日 山形美術館と打合せ

- 10月30日 日本外交協会例会出席
- 10月31日 第50回安達峰一郎記念賞贈賞式開催（受賞者：中島 啓氏）
理事会・第5回周年事業準備委員会開催
- 11月20日 日本外交協会例会出席
- 12月15日 山形美術館と打合せ
- 12月20日 日本外交協会例会出席
- 平成30年
- 1月17日 内閣府立入検査
- 1月29日～31日 山形美術館と打合せ（所蔵美術品の調査・鑑定）
- 2月7日 山辺町議団来訪
- 2月16日 奨学生研究報告会開催
第1回基本財産等運用検討委員会開催
第6回周年事業準備委員会開催
- 2月23日 基本財産運用に関する情報収集
- 2月27日 同
- 3月2日 山辺町教育委員会来訪(奨学賞引渡し)
- 3月9日 理事会開催
- 3月13日 基本財産運用に関する情報収集
- 3月19日 評議員会開催
- 3月22日 放送大学国際法講義の収録に参加
- 3月30日 内閣府に事業計画及び予算を提出

役員名簿

顧問	理事	監事	評議員
松井芳郎 奥脇直也 柳原正治 薬師寺公夫	鈴木正貢 吉田正文 折田正樹 石田照雄 大岩直子	古澤安弘	森伊津子 舩山龍二 桑原茂樹 山下泉 結城章夫 高橋節

平成30年3月31日現在